土壌調査実施報告

植栽検討市民ワーキングに先駆けて、サクラが生えている箇所を中心に、5箇所で土壌調査を実施しました。

調査の結果、調査箇所は、ほぼ砂質土で、カリウム等の栄養分が不足していました。表面から深さ30cm程が固まっており、それ以上の深さまで水が浸透していない可能性が高いことがわかりました。

今後、土壌改良や、踏圧により地面が踏み固められないような対策が望まれます。

【表　土壌調査内容（調査日：平成31年1月22日）】

調査項目	調査内容	調査結果
pH調査	ｐＨは、水素イオン濃度を表す指標である。日本では一般的に5.5～7.0の弱酸性を示す。9.0程度の強アルカリ性、4.0以下の強酸性を示す場合は何らかの対策が必要である。	問題なし 値：5.6～8.0
EC調査	ECとは、電気伝導率のことである。値が高いほど陰イオンや陽イオンの含有量の多いことを示し、土壌肥沃度の目安となる。	EC値が低い 値：0.02～0.03
簡易断面調査	土壌の表層より60cm厚程度の深さまでの層の土壌を簡易に調べるものである。 土壌サンプルを採取し、層位区分、土壌構造、土色、土性、水分状態などを調べる。	砂質土
土壌硬度試験	土壌の堅密性を調べるものである。土壌の通気性や透水性の善し悪しや、土壌内の植物根の分布や発達の難易の判断材料となる。	非常に固結
透水試験	土壌の透水性の良否を調べる。芝生・樹木ともに病害虫以外での枯死の多くは透水不良によるものが多い。	良好 ※ただし、地表面から30cm程度の深さからの浸透性。

植栽検討市民ワーキングの総括

ワーキングの最後に、加我先生からは、これまで、公園や緑道の植栽は、道路や河川の護岸など人工物と同じように一律に機械的に管理されてきましたが、生き物を扱っているのにそれではだめだと行政も市民も気づき始めており、植物に合わせて適切に春夏秋冬の手入れが必要なこと、同じ種類の木だけを植えるのではなく混植し多様性を大事することなどをお話しいただきました。また、御堂筋では、立派なイチョウ並木を存続させるため、老木化したイチョウを伐採し若いイチョウに植え替える樹木の更新が行われており、元茨木川緑地でも、サクラを楽しめる場所であり続けるためには、間引きや、老木化したサクラを若いサクラに更新する必要があることも紹介していただきました。

今回のワーキングでは、実際に現地も確認し、参加者の皆さんと、樹木の間引きや更新の必要性についてご理解をいただけましたが、今後、より多くの市民の皆さんにもご理解していただけるよう、情報発信や、このような話し合いの場を継続していくことの大切さを再認識いたしました。

そして、植物にあわせた管理をするためには、茨木緑化連合会の皆さんが樹形を作るためには最低3年はかかると仰っていたように長期的なスパンでの管理を実現していく必要があります。約40年をかけて、つくり育ててきた元茨木川緑地を、今後も育て続けてまいります。

【お問い合わせ先】茨木市建設部公園緑地課　TEL：072-620-1654

次なる元茨木川緑地プロジェクト // NEWS //

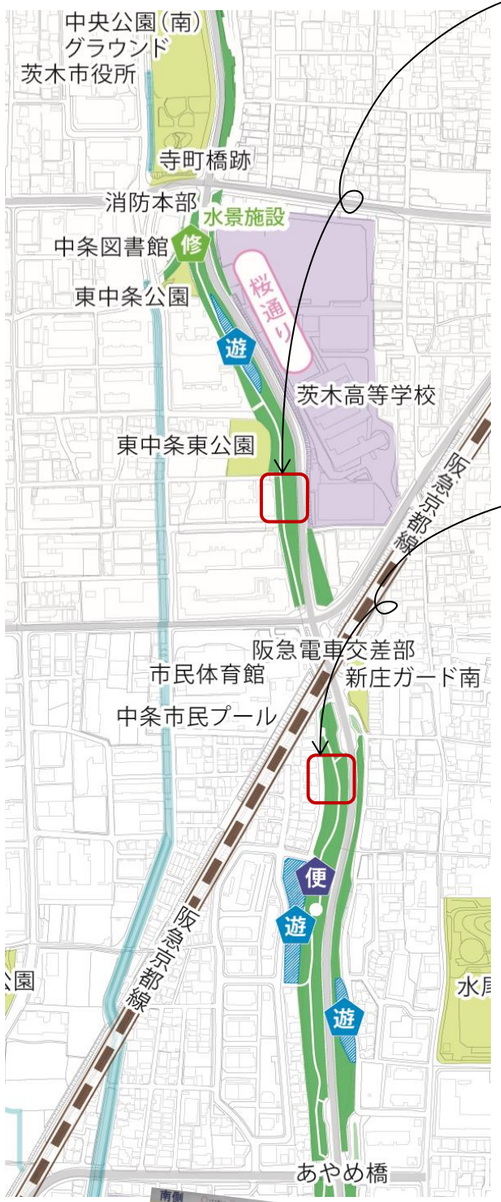
植栽検討市民ワーキング開催！

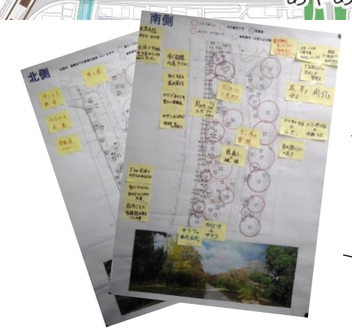
市民ワークショップでも多く意見が見られた植栽について、元茨木川緑地の具体的な場所を事例に、今後の改善の方向性を考えました。19名の市民の方、緑地環境の専門家の加我先生（大阪府立大学大学院教授）や、茨木緑化連合会の有志にご参加いただき、この緑の資産を将来に引継ぎ、活かしていくために、どのように管理をしていけばよいか、活発な意見交換ができました。

開催概要

日　時　：　平成31年2月17日（日）14:00 ～16:30
場　所　：　元茨木川緑地、茨木市役所

今回、赤枠の２箇所を取り上げて
検討しました！





いろんな意見、
アイデアが
出ました！

東中条東公園付近

現況

落葉する高木が多く、林のような雰囲気がある場所。夏場は、木陰がある一方で、暗い印象も持たれている。樹木の間隔が狭いため、枝が横に張れず細長く弱いため、台風時には多くの枝が折れた。（写真は平成 30 年 11 月撮影のもの）

主な意見

「夏は暗い印象を持たれるかもしれないが、木陰が気持ちいい場所。」
「現状の良さを活かす管理を。」
「車道側の生垣がないところは、補植が望ましい。」
「生垣の高さは、車の頭くらいが良いのでは。」

総括 ～管理の方向性について～

- 現在の木陰がある林の中のような良さを活かした管理が望ましい。
- 台風で、枝が多く折れたこともあり、樹木１本１本の枝を、今よりも健全に育てようとすると、樹木の間引きも必要である。
- 車道沿いの生垣は、車が隠れる程度の高さで、途切れず続いているとよい。

新庄ガード南付近

現況

サクラ（ソメイヨシノ）が多い場所。寿命が 60 年といわれるソメイヨシノの老木や、常緑樹や他の大きなサクラの陰になり生育が悪いサクラも見られる。ツツジなどの低木も多い。（写真は平成 30 年 11 月撮影のもの）

主な意見

「サクラを中心とした場所として管理を。」
「サクラの成長に影響がある樹木の伐採や、寿命が 60 年といわれるソメイヨシノの世代交代のために後継樹を植えていくことも必要ではないか。」
「見通しや歩きやすさを考えると、園路沿いの低木は要らないかもしれない。」
「生垣は、近隣住民のプライバシーが保護され、緑地の利用者からも住宅地が見えない点ではよい。」

総括 ～管理の方向性について～

- サクラを楽しみ続けられるよう、間引きや老木の更新は必要である。
- 安全に歩けるよう、見通しを阻害している園路沿いの低木の伐採も必要である。
- 住宅地側の生垣は、プライバシーを阻害せず、緑地からも住宅地が見えない程度の高さが望ましい。
- 車道沿いの生垣は、車が隠れる程度の高さが望ましい。

元茨木川緑地全体

主な意見

「花芽や樹形の育成などを考え、年間を通じた管理が望ましい。」
「サクラは、元茨木川緑地全体に、あるようにしておいて欲しい。」
「引っ越しの際などに植えられた植物、個人的に植えられている植物は、今後どうしていくのか。」
「植物の根を保護できるよう、歩くルートを誘導するなど工夫できないか。」
「過去に実施された例もあったが、落ち葉を集めて堆肥を作る場所を設けられるとよいのではないか。」
「樹木の伐採の必要性について、今日の参加者は理解し納得できているが、今日来られていない市民にも必要性を知らせていくことが大事ではないか。」

総括 ～管理の方向性について～

- 植物の成長を考え、１年以上の長期的なスパンで、例えば市内の造園会社など、樹木の特性がわかる専門性を持った人が管理することが望ましい。
- 樹木が健全に成長し、市民にとっても安全で居心地のよい緑地環境とするために、樹木の間引きや、老木化した木を若い木に更新することも必要である。
- 元茨木川全体を通して、サクラが楽しみ続けられる管理が望まれる。
- サクラなどの木を守り育てていくために、伐採しなければならない木もある必要性を市民に周知することが望まれる。